

太田市自分ごと化会議 2023

第4回会議 議事概要

日時	2024年3月2日(土) 13時~16時
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英

凡例) コ: コーディネーター、伊: 伊藤 伸、委: 委員、市: 市職員

議事概要

■導入

コ 今日第4回目の会議だが前回は、公共交通に乗ってみた人はいるか。

委 乗ってみると楽しかった。いつも車しか乗ってなかったから、遠足している気分になった。

委 世良田駅から太田駅まで孫と一緒に電車に乗った。乗るとすぐ孫が先頭車両の一番前に向かい、運転席越しに進んでいく線路を見ていた。孫にとっては、中吊りの広告、乗り降りする人、すべてが新鮮に見えていたようで目がキラキラしていた。本当にいい体験をしたと思っている。

コ 乗ってみると普段見慣れた町も違って見えたりするからぜひ体験してほしい。さて、ここで今日の流れを説明したいと思う。
(パワーポイント資料「本日の流れ」を参照)

■チェックイン (前回会議までの振り返り)

(パワーポイント資料「チェックイン」を参照)

■提案書素案を読んだ感想

コ ここからは提案書の素案を読んで全体的に感じたことなどを話してほしい。まずは、グループで話してほしい。

(グループ対話)

コ 全体でシェアしていきたいと思う。まずはA班から発表をお願いしたい。

委 私たちの班では、市営無料バスを見たことがないという意見や、自分たちが乗れる時

間帯ではないため、できれば土日に運行してほしい。また部活動で帰宅が遅くなることもあるため、それにも対応できるようにしてほしいという意見が出た。

コ ありがとうございます。おうかがい市バス、市営無料バス、シティーライナーおわたの3事業の概要は後ほど話したいと思う。
続いてB班お願いしたい。

委 行きたいときに行きたいところへ行きたいという意見が改めて出た。スバル渋滞はどうするという意見や、電車を増やさないといけないがそれも難しいという意見が出た。

コ 行きたいときに行きたいところへというのは自家用車と比較しているから。それは悪いことではないが、太田で公共交通を考えると、行きたいときに行きたいところへ行けるというのが市民ニーズ。それを満たすためにどういう手段がいいのか考えることも必要だと思う。
それでは続いてC班お願いしたい。

委 発言した内容は提案書に盛り込まれている。
提案書の構成の話なのだが、最初課題があり、最後に提案という形になっているが、課題と提案をつなげた方が一つ一つつながって見やすいのではないかと思った。内容についてはまだしっかり読めていないのもう少し見させてほしい。

コ 提案書の最初に課題、最後に提案という構成は確かに毎年課題になっている。最初にモヤモヤが書いてあって、Ⅲ章からは解決策が書いてある。最初のモヤモヤについては参考資料として出すことも可能だ。モヤモヤを最初からたくさん出すとモヤモヤするという意見もある。
それではD班お願いしたい。

委 素案の内容どおりだと思った。

委 市の予算の問題があると思うが、公共交通を普及させるにあたってバスを市が用意するのかそれとも民間業者に任せるのかという問題があると思う。また地域の人で地理に明るい人が参加すればよくなると思う。いずれにしても市が先頭に立って進めていく必要があると思う。

コ 公共交通は市が旗振り役になるというのは確かに必要である。

今出た話に関連して2024年問題というのが前回会議で出たと思うが、この4月から働き方改革の一環で運送関係の運転手が時間制限で収入が減るから運転手を辞めるといった人が増えて、全国の自治体では休便になる事例が増えている。今話にあったように公共交通は地域の人が働く場にもなる。その循環を考えるのは公共交通の課題であると思う。

■各章の点検（Ⅲ章 地域公共交通事業の周知）

コ さて、ここからは「Ⅲ章 地域公共交通事業の周知」ということで、以前の会議のグループ対話でどの班でも挙げた課題である。市側は「伝えている」というが、市民側には「伝わっていない」というのが事実でもある。その他には、免許返納の際におうかがい市バスを使えますという案内をしているが、実際は免許返納前からその情報は必要なのではないかと。その情報があるから免許返納につながるのではないかとという意見があった。

それでは、公共交通がどうすれば市民に伝わるのだろうかという視点で話し合ってもらいたいと思う。

（グループ対話）

コ それではD班から発表をお願いしたい。

委 私たちの班では、市民に周知するためにイベントを行った方がいいのではないかという意見が出た。例えば、小学生向けに漫画のキャラクターを使ったスタンプラリーを行うのがいいのではないかと思った。これにより人気上がるし、楽しみながら小さい子供たちに知ってもらえるのが大切だと思った。

もう一つは呑竜様や冠稲荷など観光できる場所があるのに、行きづらいというところがあるので、そこを改善できれば知られるようになると思う。足利市のアッシーの話が出たのだが、観光地とバスのつながりが強いと、公共交通も使われるようになると思う。また、スバルなどの地元企業と協力して何か行うといいのではないかという意見が出た。

コ キャラクターの話が出たが、太田が舞台のアニメはあるのか。千葉市の場合はモノレールにアニメのキャラクターを載せて親しみを持ってもらうなどしている。あと、初音ミクと千葉市のマークが似ているという理由からコラボしたというのもある。また足利市の話が出たように、観光で来た市外の人と市内に住んでいる人の両方が使えるといい。

続いて、C班をお願いしたい。

委 C班では、免許返納の際にチラシを渡されるだけだと使い方が分かりづらいので、講習を行って使い方を教えると使ってみようと思う人が増えるのではないかと、月に1回無料で乗れる日を作ると利用者が増えるのではないかという意見が出た。
あと、最近サンダーズが盛り上がってきているので、コラボできるといいと思う。

コ NHKのサラメシという番組で群馬特集をやっていた。オープニングはBack numberの水平線から始まって涙が出るほど嬉しかった。番組の中では呑竜様が紹介されていた。
続いてB班お願いしたい。

委 太田市のホームページに情報が載っていることを知らなかった。LINEを活用して周知するのもいいという意見が出た。

コ 市のホームページに載っていても、確かになかなか見る機会がない。
C班の意見だが、チラシを配るだけでなく、使い方を教えるというのは大事。
太田市のおうかがい市バスはすごく便利。その割に使われていないのがもったいない。一度使ってもらえれば、こんなに便利なんだと思ってもらえると思う。
ホームページに関してはどこの自治体も課題なのだが、ホームページのアクセス数を分析すると、アクセスが多かった時は台風など災害時やコロナ禍の時。つまり、困っていないときは見ない。公共交通もそうなのではないか。だから、皆さんがもし市のホームページで情報をつかんだときは周りの少なくとも一人には拡散してほしい。
それでは、A班お願いしたい。

委 周知については提案書の中に出揃っているなどと思った。
クレインサンダーズの試合の日にはシャトルバスが出ているが、それでも自家用車で会場まで来る人が多くて会場に停められない。コンビニの駐車場に停めている人を見かけたことがあるので、便数を増やしてもいいと思う。

コ 市の事業に関して、あるのに知らないということが多い。どうやったら知ってもらえるんだろうというところが課題だと思う。そのあたりのアイデアがあれば意見提出シートに書いて欲しい。

■各章の点検（Ⅲ章 2.公共交通事業について）

コ ここからは、太田市の公共交通の各事業について話していきたいと思う。

(パワーポイント資料「各章の点検(Ⅲ章 2.公共交通事業について)」参照)

コ 第2回会議の時に一度考えてもらったが、今回改めてどの交通手段が太田市に合っているのか考えてほしい。今の時点で何か意見を伺いたいのだが、あるか。

委 市営無料バスをシティーライナーの路線で走らせることはできるのか。

市 混線するため難しい。なぜなら、有料と無料のバスが同じところを走ることになるから。

委 市内に交通空白地帯(駅やバス停が一定の距離の範囲内に無い地域のこと)はあるのか。

市 空白地帯はない。ただ、北や西のエリアは公共交通が少ない。具体的には毛里田、強戸、藪塚本町地区は考えていかないといけない。

コ 1日に公共交通が1本でも走っていれば交通空白地帯にはならないため、空白地帯とはならないまでも、不便な地域は存在しているかもしれない。他の方はいかがか。

委 市営無料バスを学校行事で使うことがあるためこのままでいいと思う。

市 現在13台のスクールバスのうち5台が市営無料バスとの二刀流で使っていて、残りに8台は学校行事専用で運用している。

コ 3つの事業についての感想はあるか。

委 電車やバスの路線をもっと増やしてほしい。

コ 3事業のうちどれにお金をかけたらいいと思うか。

委 シティーライナーおおたにかけたらいいと思う。

コ それはなぜ。

委 おうかがい市バスは利用対象者が絞られているから。

コ なるほど。条件があるからか。どんな条件だったか。

市 70歳以上で運転免許を持たない方が対象。

コ シティーライナーおおたであれば誰でも乗れるから増やしたほうがいいということか。

委 はい。ただ、バスの大きさをもう少し小さくしてもいいのかなとは思う。

コ 小さくしても乗らない。コストは下がるかもしれないがより多くの人に乗ってくれるかはわからない。加えて、シティーライナーおおたは違う路線を走ることができない。

委 ここで走れないと決めつけるのではなく、話し合いが必要。

コ なるほど。ここで皆さんに聞きたいのだが、今話しがあったようにシティーライナーおおたの路線を増やしたり、サイズを小さくするなど事業を進めるか、それともおうかがい市バスを充実させていくかどちらがいいか聞きたい。

委 シティーライナーおおたの便数を増やすのがいいのではないか。

コ なるほど。逆におうかがい市バスを充実させたほうがいいという意見の方はいるか。

委 おうかがい市バスの乗車料金を高くしてでも広げていくべきだと思う。乗れる人の制限を緩和してもいいと思う。

コ 他の意見は。

委 おうかがい市バスの制限を緩和したほうがいいと思う。なぜなら、ケガをしても免許を持っているからという理由で乗れなくなってしまうから。私は目を怪我したときにタクシーを使っていたので要件緩和されれば使う人が増えると思う。

コ 他に意見がある方はいるか。

委 今後、少子高齢化でおうかがい市バスを利用する人が増えていく中で、市の負担がど

んどん増えていくと思うので、現行の制度のまま運用していくのは難しいのではないかと考えている。

コ ありがとうございます。前回会議の際に一人当たりの乗車料金を上げてもいいのではないかという意見が出たが、そのあたりはどう思うか。

委 市民がある程度負担していかないと持続できないのではないかとと思うので、上げるのも仕方ないと思う。

コ 持続するためにどうしたらいいという視点はすばらしい。

委 市に質問なのだが、災害があったときに一番早く再稼働できる事業はどれか。

市 基本的にはシティーライナーおおたが一番早く動かせると思う。

コ ここで「継続」、「要改善」、「要検討」の3つで判定してもらおうかと思うのだが、第2回会議の時に市民には3つの顔があると話をしたが覚えている方いるか。

委 まず「サービス利用者」、2つ目は「税金を負担している人（株主）」、3つ目は「まちづくりの主体」

コ ここで皆さんには市長になったつもりで3事業のうちどれに投資をするか考えてほしい。どれかに手を挙げてほしい。

【手を挙げた委員の人数】

- | | | | |
|-----------|----|--------------|----|
| ・おうかがい市バス | 9人 | ・シティーライナーおおた | 5人 |
| ・市営無料バス | 0人 | ・わからない | 1人 |

		継続	要改善	要検討	
おうかがい市バス	前回	0	13	0	9
	今回				
シティーライナー	前回	8	5	0	5
	今回				
市営無料バス	前回	10	3	0	0
	今回				

※1

コ 改善のアイデアを聞かせてほしい。

【おうかがい市バスに手を挙げた人のアイデア】

委 台数を増やす。停留所数を増やす。

委 年齢、免許返納の制限をなくし、全市民対象にする。制限を残すとしたら、20歳以上にしたり、免許返納した70歳以上の人は利用料無料にする。

コ 市としての考えはあるのか。

市 おうかがい市バスについては要件緩和を考えている。具体的には令和6年4月から免許の有無や介護認定の有無は撤廃していこうと考えている。70歳以上であれば誰でも利用できるように考えている。また現在7台体制で運行しているのを9台に増やす予定。

また、市営無料バスの西バスをシティーライナーおおたのように運行するのも検討している。

〈休憩〉

コ 両手を出して常に左手が必ず勝つように自分でじゃんけんをしてほしい。例えば左手がグーの時は右手はチョキという具合。急にやれと言われると難しいですね。なぜやってもらったかという、急に高齢化が進むわけではないのだが、気付いた時には進んでいて手遅れになっている。そうならないために今から話し合っていきましょうというのを体験してもらうため。

ではまず、構想日本の伊藤さんからライドシェアと自動運転について情報提供をしていただく。

伊藤さんの紹介

- ・デジタル庁参与。
- ・河野太郎デジタル大臣と普段7時間～8時間一緒にいて仕事をしている。
- ・構想日本の総括ディレクター。
- ・ライドシェアや自動運転についての情報量は日本の中で上位数人の中のひとり。

伊藤さんからの情報提供

- ・16歳から24歳の事故率と65歳以上の免許所持者の事故率はほぼ同じ。

- ・特に16歳～19歳の事故率はものすごく高い。
- ・その理由は免許を取ったことの喜びやスピード感覚の未熟さが原因。
- ・死亡事故率で言うと65歳以上が若干高い。
- ・16歳～24歳の免許所持者は550万人、70歳以上は1300万人と分母が違う。
- ・白ナンバーであっても登録をすれば、交通空白地帯で白タクが認められている。
- ・現在は地域公共交通協議会で、全会一致で交通空白地帯と認められる必要がある。
- ・全会一致はかなりのハードル。
- ・そこで、令和6年4月1日から市長が認めればいいとルールを変えようとしている。
- ・ライドシェアの料金設定は自由に決めていいことにしようとしている。
- ・ただしやるかどうかの判断はそれぞれの自治体やタクシー事業者に委ねられている。
- ・おうかがい市バスのような仕組みをライドシェアでできたらとても良くなると思う。
- ・欧米で有名なUberはフードデリバリーよりも人を乗せる事業が主流。
- ・2種免許を取るためには1種を取ってから3年経過、30日間の研修、約80万円必要。
- ・2種免許保有者の平均年齢年齢65歳。
- ・ライドシェアで事故を起こした時の責任はドライバーではなくタクシー事業者が取るルールにしようとしている。
- ・タクシーとライドシェアで事故補償は変わらない。
- ・自動運転の技術は我々が思っている3、4歩進んでいる。
- ・サンフランシスコでは自動運転のタクシーが1000台走っている。
- ・アプリから呼ぶと自動的に来てくれる。
- ・その誤差は約10メートル。
- ・人間が運転して事故を起こす確率より自動運転が事故を起こす確率のほうが圧倒的に低い。
- ・トヨタが自動運転開発を進めていたが、オリンピックの選手村での事故をきっかけに実証実験がストップしてしまった。
- ・日本でも運転席のない車が開発されている。
- ・前橋市では自動運転バスを走らせている。
- ・週に1回自動運転バスで通勤するだけでも渋滞対策になる。

コ 伊藤さんへの質問あるか。

委 ライドシェアは自動運転が普及するまでのつなぎというイメージでよいのか。

伊 河野さんが言っていることとまったく同じ。それぞれの車が自動運転になれば事故

率も下がるし、便利になる。その過程でライドシェアを活用する。

委 国としては今後自家用車を残していくのか、ヨーロッパのように公共交通をメインとしていくのか、どのように考えているのか。

伊 決まっていない。なぜなら、日本の自動車産業をなくしていくことになってしまうから。ただ、交通事故の年間死者数は約3000人いるので、そこも加味しながら何が幸せかを考えないといけない。

委 自動運転車が事故を起こした場合の責任は誰が取るのか。

伊 現在会議を重ねていて今年の夏までに結論を出す。現段階では遠隔管理する事業者が取る方針。

能登地震では陸路が完全に寸断されている。なので物資をドローンで運んでいる。また災害関連死と呼ばれる人が全体の死者の1割を占めているが、これを救うために新たな技術が求められている。

コ では、将来の公共交通についてグループ対話をしてもらう。意見は意見提出シートに書いてほしい。

〈グループ対話〉

■チェックアウト

コ 最後に一人ずつ全体を通した感想を言ってもらおう。

委 正直興味のないテーマだった。ただ、せっかく選ばれたから参加した。参加してみると様々な意見を聞くことができてよかった。質問ばかりして解決策を出せなかったが勉強になったので参加できてよかった。

委 このテーマに限らず考えていかないといけないと思った。今回感じたのは自分に役に立つことは自分で取りにいかないと見つからないのだなと感じた。だから、こういう機会に積極的に出ようと思うようになった。

委 参加して本当に良かった。家では何もしないので来てよかった。皆さんも勉強する意味で積極的に参加してほしい。ありがとう。

- 委 私は高校1年生で免許も持ってないし、家から学校もそんなに遠くないので自転車で通学している。最年少としてみんなの意見を聞いて自分の未熟さを実感した。免許を取ったら車を運転しつつ、公共交通も使っていきたい。
- 委 太田市を知りたいという思いで参加した。3事業からライドシェアに関する皆さんの意見を聞くことができてとてもよかった。
- 委 息子は知的障がいがあり、毎日バスを使っているというところから参加を決めた。息子は毎日楽しく通勤している。これからも行政に関われることがあったら関わっていきたいと思う。
- 委 最初は市の会議で怖いと思っていたが、第1回会議参加してみたらすごく楽しくて気付いたら最後になっていた。公共交通に関する興味が高まったので、友達と出かけるときには使いたいと思う。
- 委 皆勤賞で参加させていただいた。
いろいろな情報がある中で、自分に必要がなさそうな情報でもこれからは積極的に仕入れて活用していきたい。
- 委 最初は届いたから行ってみようという気楽な感覚だったが意外と難しかった。ただ、いろいろな方の意見を聞き、最後は楽しかったので良かった。
- 委 タクシーが少ないなど不便に感じていたが、こうやって呼んでいただき、公共交通のことがよくわかってよかった。4月からライドシェアなどで明るいことが見えてきてよかった。
- 委 市との接点がなかったから参加した。また、市に貢献したという思いから参加した。いろいろな世代の人の生の声を聞いて良かった。全回出席して今の状況が理解できた。車にある日突然乗れなくなることもあるので、重要なことに参加できてよかった。
- 委 参加して普段関われない人と関わってよかった。自分の市についてもっと興味を持とうと思った。今回話したことで太田市がもっと良い町になったらいいなと思った。このことを周りの人に伝えたり、自分の市について知らないといけないなと思った。参加できてよかった。
- 委 何をやるんだろうなというのが最初だった。普段の生活でほぼ利用することがなく、

全然興味がなかったが、交通弱者に対して行政が頑張っていることを知れたし、おうかがい市バスのことも知ることができてよかった。いい経験をさせていただいた。

委 公共交通についてここまで考えたことがなかった。今後はなるべく公共交通を使っていきたい。そして会場を見渡してみると太田市の職員の方が多い。自分ももっと頑張らないといけないと思った。

委 何年か前に移住してきたが、こども政策に手厚くて住みやすい町だと思っていたが、3つの事業をまったく知らなかった。広報を見ているつもりでも自分ごと化できていなかったと思った。これを機に自分だけではなく子供のためにも住みやすい町にするため発言する機会があればまた参加したい。

コ 最後に市からコメントをお願いしたい。

市 皆さんが公共交通に対して興味を持っていただけたこと。また、議題に対して真摯に議論してくださり感謝している。皆さんの意見を今後の太田市の発展のために活用させていただければと考えている。また、なにかあれば交通対策課まで連絡をいただきたい。

コ 私から最後一言だけ。第1回会議の際に「ありがとう」の対義語はなんなのかと質問したが覚えているか。

「ありがとう」の反対は「当たり前」という話をした。

ありがとうを漢字で書くと「有ることが難しい」と書く。

物事を当たり前と思っているとありがとうという気持ちがなくなってしまう。

当たり前のことこそありがたい。「難」はやってくる。そういうときこそみんなで協力していくことが大切。「当たり前」をもう一度考えることも幸せのひとつ。

ぜひ「ありがとうの反対はなに」という質問を誰かにしてほしい。そうすれば忘れない。太田市のために引き続き関心を持って行動してほしい。